



# はじめまして、 虹の会です

はじめまして。  
私たちは、滋賀県高島市で暮らしのそばに立つ、  
社会福祉法人 虹の会です。  
子どもも、お年寄りも。  
ひとりの人生を、まるごと見つめて支える。  
この冊子は、そんな私たちの想いと歩みを、  
小さな「いろは」としてまとめたものです。



## 子どもから お年寄りまで、 ずっとそばで支える

「私たちがいなくなったら、この子はどうなるのか……」障がいのある子を育てるご家族が、ふとこぼした言葉です。その問いに、虹の会は応えたいと思い、障がい者支援に限らず、暮らしから余暇、働き方の多様性まで、人の一生をまるごと見つめて支えたいと考えてきました。人は、ひとりで生きられない。けれど、それは弱さではなく、つながりのかたちです。私たちは、その関係性をたがやす、つながりの土壌です。



## まちの声にこたえて、 広がっていった拠点

虹の会が大切にしてきたのは、時代ごとの声に耳をすませることでした。まちの小さな「困りごと」に寄り添ううちに、ひとつ、またひとつと拠点が生まれ、高島のまちにぽつぽつと灯を灯しています。大きな拠点をつくるより、小さな灯をたくさん灯すほど、まちは温かくなるはず。私たちは、困りごとをキャッチするための「気づきの網」を繕いながら、孤立しないまちを紡いでいきます。

## たしかな専門性と、 心を込めた支援

知識や資格は、私たちの大切な道具です。けれど、それだけでは届かないものが、人と人の中にはあります。支援は、マニュアルではなく、関係の中に息づくもの。虹の会の職員は、その日、その時の小さな発見を共有し合い、支援のかたちそのものを育てています。ときには、支援する側が利用者から励まされることも。そこに生まれる「おたがいさま」の往復こそ、私たちの専門性のいちばん深いところにあるものです。



虹の会で

# 相談する



## どんなお困りごと まずは受け止める

福祉って、だれかを支える仕事だと思われがちです。でも、支える前に、まず「聴く」。それが、すべてのはじまりです。「どうしよう」という、まだ形にならない不安や言葉にならない願い。そこに耳をすませることが、福祉のいちばん手前にある仕事です。私たちは、障がいのある方や社会になじめない方の“暮らしの地図”をともに描いていきます。その人が歩きたい道を聴きながら、たくさんの支援の中から、いちばんその人らしいルートを探していく。ときに教育、医療、地域などを行き来し、その人の暮らしが無理なくつながらるように計画します。

職員の声

### 福祉って想像力 なんです。

ぼくたち福祉に関わる職員に必要なのは、想像力です。相談窓口で電話をくださった方は、どんな気持ちだろうかと。1本の電話をかけるまでにどれだけ迷いがあつたのだろうか、と想像しながら受話器を取っています。だから、相談のたびに何かひとつでもお土産になるような話をしたいんです。

## たとえば、こんなサービス



### 計画相談支援センター 虹

相談窓口

障がいのある方やそのご家族が、地域の中で安心して自分らしい暮らしを続けられるようサポートする計画相談事業所。サービス等利用計画の作成やモニタリングを通して、本人の希望や生活状況に沿った支援体制を整えるお手伝いをしています。



### ホップ

就労準備支援

就職に向けて不安や課題を感じている方のための準備の場。生活困窮者自立支援法に基づき、就労に必要な基礎力や生活リズムの安定、社会との関わり方などを段階的に身につけていきます。

## 虹の会では、高島市から委託を受けて 障がい者福祉サービスに関する相談受付を行っています。

虹の会では、2012年より高島市から委託を受け、高島圏域全体の障がい者相談支援センター「コンパス」を運営しています。



### コンパス

相談窓口

相談者からのお困りごとを受け止め、各種関係機関と連携を行いながら、その人らしい暮らしの伴走を行います。またひとりのお困りごとを、地域の困りごととして共有、解決へ結びつけていく「自立支援協議会」の運営も行っています。

虹の会で

# 暮らす



## 自分らしく暮らすために 一人ひとりの自立を支援

その人らしい暮らしをつくるには、その人の“できる”を信じるのが大切です。虹の会では、利用者が地域の中で安心して暮らせるように、いくつかのグループホームを運営しています。そこは「守る場所」ではなく、“自立への途中”にある共同生活の場です。自分で選び、自分で決めて、喜びも悔しさも、ちゃんと自分のものとして生きる。そばで信じるのが、寄り添うことの第一歩だと思っています。また、住み慣れた家での生活を続けたい方には、居宅介護や外出時の付き添いを行う行動援護など、状況に合わせたサポートを行っています。

### 職員の声

ひとりで生きることより、  
居場所をたくさん  
つくりたい。

たとえば、震災が起きたとき、利用者さんに手を差し伸べられるのは自分たち職員ではなく、地域の方かもしれません。そう考えると、自立とは誰かに頼らずに生きることではなく、暮らしの中に、いくつかの“頼れる場”を持てることだと思います。そんな「関係の輪」を広げていきたいです。

## たとえば、こんなサービス



### ひまわり生活の家・ という

共同生活援助

支援員や世話人のサポートを受けながら、数人で共同生活を送るグループホーム。食事・入浴・服薬・外出・通院など、必要な支援を丁寧に行いながら、毎日の生活の中で自己決定・自己選択を重ねていけるよう支援しています。



### わになろう

行動援護

地域活動支援

居宅介護

重度訪問介護

一人ひとりの個性と願いを大切にしながら、住み慣れた地域で安心してその人らしい暮らしを続けられるよう支援を行っています。居宅介護や外出サポート、行動援護などを中心に、地域に開かれた事業所を目指しています。

## ホームでの暮らしてどんなの？

ホームで生活する利用者のとある1日をのぞいてみました。

### 利用者のとある一日

8:30	起床 朝食・準備	17:10	順番に入浴、洗濯、自由時間
9:30	共用部分の掃除	18:30	夕食
9:50	各事業所・就業場所へ移動	19:30	片付け
10:00	事業所で活動	20:00	自由時間
12:00	昼休憩	22:00	就寝
13:00	事業所で活動		
17:00	帰宅		

### 家族の声

## 安心できる居場所が 見つかりました。

家族のもとを離れて自立し、できることを増やしたいという思いから、入所を決めました。自宅以外の行く場所、行って楽しい場所が見つかったことが自立につながり、とても安心しています。また、家族の負担が減り、何かあったときの安心感があります。

虹の会で

# 過はたらく ごすらく



## 働くこと、過ごすことこそ その人の人生のかたち

どんな人にも、その人だけの時間があります。虹の会では、子どもから高齢までの利用者が、自分のペースを保ちながら段階的に社会とつながりをもてるよう、さまざまな通所サービスを展開しています。

「働く」を支える就労継続支援では、複数の拠点があり、その人の得意や状況に合わせて働く場所を選び、できることを少しずつ上げたりします。「過ごす」を支える生活介護では、食事や身の回りの介助を含めながら、その人の“暮らしのリズム”をともにつくっていく。なにより「その人が、その日をどう過ごしたいか」をいっしょに考えています。また、農作業や自主製品の制作活動を通じ、生活介護で働くといった活動も行っています。

職員の声

ひとりの人間として  
その人の性格に  
合わせた支援を。

当然のことですが、障がいのある・なし以前に、ひとりの人間としてその人の性格があります。日中活動時の声のかけ方ひとつをとっても、その人の性格に合わせたアプローチを心がけています。虹の会は活動内容の幅が広いので、個々にあった過ごし方を見つけてもらえたら良いと思います。

## 就労支援サービス

虹の会では、さまざまな就労支援を行っており、複数の働き方から、一人ひとりに合った仕事の選択が可能です。



## 日中活動サービス



### ハーモニー

生活介護

障がいのある方が日中を安心して、自分らしく過ごせる生活介護事業所。音楽、芸術、園芸など、日々の活動を通じて喜びや達成感、社会とのつながりを実感できる支援を行っています。



### ぱれっと

放課後等デイサービス

児童発達支援

就学前の6歳まで（児童発達支援）、または学校へ通う障がいのある子ども（放課後等デイサービス）が、遊びや学びの場を通して、コミュニケーションや生活スキルの練習・自立度をあげられるような支援を行っています。



### のこのこ

地域活動支援

生きづらさを抱えた人が、元気を回復して生きる希望を取り戻す「リカバリー」を目指す場です。リカバリーとは、自分自身の人生を生きている感覚を取り戻すことです。「のこのこ」では、あなたのリカバリーを一緒に考えたいと思っています。

バラバラだからおもしろい

# 虹の会の各拠点から

滋賀県高島市内に多拠点を運営する虹の会。  
虹の会で働く職員が、各事業所らしさの詰まった  
ワンシーンを撮影！  
職員目線で切り取った、飾らない、個性豊かな  
虹の会の日常をお楽しみください。

FUKUI

TAKA SHIMA



@ アイリス

## 組み立て作業は、まるで プラモづくり!?

笑顔が素敵なSさん。単調な作業こそ楽しんで行きます！形をよく見て向きを合わせ……工夫しながら器用にねじをはめたら完成！



@ マーブル

## 愛用のファン付き ベスト

どんどん積まれていくリネンたち、それはMさんが黙々とこなしたものです。「作業終わり」の合図まで今日も頑張ります！愛用のファン付きベストで暑さと向き合いながら。



@ ドリーム・だんだん

## いつもの光景

昼食後のゆったりタイム。Sさんの特等席をこっそりのぞくといってお顔で迎えていただきました。



@ ドリーム・あんです

## とある日のお昼休み

「今日は何しに来たん?」「いってらっしゃい!」来客者や職員に和やかに話しかけるMさんとTさん。おふたりにとってこのベンチは、ゆっくりとおしゃべりしながら過ごせる場所。



@ といろ

## 明日着る服、 これにするわ~

明日着る服はどれにしよう、タンスの中身にとらめっこ。職員さんとお話しながらファッションショーして赤のポロシャツとグレーのズボンに決定！



@ といろ

## おちゃめな会話♪

最近、宿鴨で暮らしはじめたNさん。一人暮らしをしている職員に、「お家のお洗濯とかお手伝いしましょうか? あなたのお家、知らないんですけど~」と一言(笑)。



@ のこのこ

## なんか知らんけど、 僕の席

Aさん「今日Bさん来ます?」  
職員「来られますよ~」  
Aさん「じゃあこの席空けとこ」  
お互いが思いやっつながら、ここはみんなの居場所。



@ ホップ

## 体験で自分の得意を 発見

はたらく体験でいろんな仕事をしたあとに、ここで本を読む時間が好き。



@ ハーモニー

## これぞ、ハーモニー

CDデッキから流れる音楽、職員の手拍子、利用者の合いの手と笑い声。いろんな音が響きあう、これぞまさしく“ハーモニー”。



@ 大地

## トビラ越し会話

「昼からの作業は何や?」  
「さつまいも掘りやったかな~」



@ わになろう

## すきなもの

すきな食べ物、すきなキャラクター……。チラシや雑誌を切って貼って、壁に広がるすきなものでできた世界。



@ ばれっと

## すきなあそび

伴奏に合わせて歌って踊るのが好き。ボタンを押して、曲を流すのが好き。同じおもちゃを選んでも、遊び方は、それぞれちがう。



@ ひまわり生活の家

## 毎日のルーティーン

お風呂に入って、夕飯を食べて部屋に戻ってテレビを見る。Hさんお気に入りの番組は「水戸黄門」。

KYOTO

SHIGA

# 虹の会職員の 1日に密着！

複数の拠点を持ちながら、利用者一人ひとりの支援に向き合う虹の会の職員はどのように働いているのでしょうか。職員・久郷さんの1日に密着しました。



ハーモニー職員  
久郷さん

保育を学んだ学生時代、障がい福祉の分野へ興味をわくと同時に高島の地に魅了され、移住を決意。虹の会と出会って8年目。

- 8:30 ● 出勤・スケジュール確認
- 8:45 ● メール確認・返信
- 9:15 ● 利用者受け入れ・連絡事項等確認
- 9:30 ● 利用者支援
- 12:30 ● 休憩
- 13:30 ● 会議参加
- 14:30 ● 事務仕事・利用者支援
- 15:15 ● 利用者送迎
- 16:00 ● 事務仕事
- 16:30 ● 職員打ち合わせ
- 17:15 ● 退勤



## 連絡事項の確認

利用者支援に入る前に、申し送りや連絡事項を確認します。

## 利用者支援

利用者支援は、一人ひとりに合わせた接し方や声かけを行っています。



## 利用者送迎

利用者のお見送りと送迎。それぞれが暮らすホームやご自宅まで送迎します。



## 職員打ち合わせ

事業所内の打ち合わせ。和やかな雰囲気、自由な発言がとびかいます。



## 職員・久郷さんに聞いた、 高島ってこんなところ



私は、虹の会への就職と同時に高島市へ引っ越してきました。高島市の魅力はたくさんありますが、ふと深呼吸をしたくなるように空が広く、歩いていて人とぶつかることもない。そして、古き良きところも大切にしつつ、あたらしい事も受け止められる、そんな“余白”がある場所だと感じています。あたたかい周りの人たちにも恵まれ高島での暮らしも長くなりましたが、いまだに日々楽しい発見があります。

# 合言葉は おたがいさま

支える人と支えられる人。その立場に関係なく、そのあいだに「おたがいさま」が芽ばえるとき、福祉はたがやされていきます。虹の会の日常にある声をひろいあげてみました。

## ＼おたがいさま／



職員  
杵谷さん

上司・部下という関係性の中、日常業務や利用者支援をはじめ、伝えることはわかりやすく丁寧に伝えるようにしていますが、当の本人は、細かく伝えずとも行動をしっかりと見て吸収する力を持っています。それを察して動ける場所はお互いのことを知りえているからだと思います。



職員  
中川さん

利用者支援で困っていたとき、杵谷さんへ相談すると答えをくださるのではなく、「こんな視点で考えてみるのもいいんじゃない？」と、自分で考える機会を与えてくださいます。そのうえで一緒に支援内容を考えていただけたことがありました。そういったやり取りが日常の中で多々あり、学びを深め、自身の成長にもつながっています。

## ＼おたがいさま／



不二電機工業株式会社  
(業務委託元)  
藤田さん・森本さん

弊社は、永久標語「品質が一番たしかなセールスマン」をもとに、人とのつながりや地域社会との共生を大切に製品づくりを行っています。そんな標語にふさわしい製品が納品されていることは、虹の会の利用者の方の丁寧なお仕事があるからこそと思います。お互いにもつくりを通じて成長しあえる、まさに“おたがいさま”な関係だと感じています。



職員  
梅村さん

製造業の請負作業をするにあたり、利用者の方が仕事をしやすいような仕組みを一緒に考えてくださったのが不二電機工業の藤田さんと森本さんでした。また、実際に組み立てた部品がどこで使用されているかを教えてくださり、利用者の方のやりがいにつながりました。みなさん、日々誇りをもち仕事に取り組んでいます。

## ＼おたがいさま／



利用者  
枝さん

ホップを利用しているときに、職員と一緒に「ふれあい食堂」へ参加しました。人と関わることが得意ではないのですが、森田さんたちにサポートをいただき、今では月に1回、スタッフとしてお手伝いをしています。これからも続けていきたいです。



ふれあい食堂  
ボランティアスタッフ  
森田さん

地域で“つながり”をつくれる場が必要であると感じてはじめて「ふれあい食堂」。今では毎月200人以上の方が参加してくださいます。毎月必ず手伝いに来てくれるのが枝さん。シャイなところはありますが、真面目でこつこつと仕事をしてくださるので、受付の仕事に信頼して任せられる、今やふれあい食堂の「顔」的存在です。

# 福祉をたがやし 「おたがいさま」の つながりを育てる。

福祉は、ときに制度や仕組みを大切にすあまり、  
耕していない土壌のように、  
かたく、閉じてしまうことがあります。

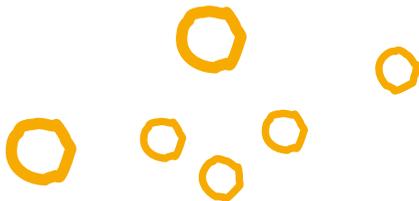
私たち「虹の会」は、そんな福祉そのものをたがやし、  
地域にひらかれた風通しのよい場をつくりたいと考えています。  
それは、障がいのある・なしを問わず、  
一人ひとりが、その人らしく、文化的に生きていくために。

文化 (Culture) という言葉は、  
ラテン語で「耕す」という意味をもつ “Colere” に起源をもち、  
そこから転じて、  
才能や能力などを「育てる」  
人との友情やつながりを「養う」  
といった意味をもつようになったと言われています。

土壌をたがやし、種や苗が育ち、花や実を養うように。  
子どもも高齢者も、利用者も職員も、肩書きや立場を問わず、  
互いに心をたがやし、ひらいていくことが、  
文化的に豊かな状態なのだと思います。

人は他者との関係性の中で生きる存在であり、  
人は本来、自律的な存在です。

ここに集うもの同士が、共に生きるために、  
晴れの日も、雨の日も、  
「おたがいさま」といえるつながりを育み、暮らしをつくる。  
私たちは、そのような“福祉の耕作者”でありたいと願っています。



## 田村理事長に聞いた、 「おたがいさま」のある暮らし

—田村理事長が「おたがいさま」を感じる場面は？

法人の方針・目標を掲げ事業に取り組むにあたり、管理職とベクトルを合わせていきます。また、課題に対して管理職間の連携や協力関係の中で解決に向かうこともたくさんあります。立場や役割が違っても、ベースにあるのは「おたがいさま」のつながりであり、大切にしていると思います。

—過去には限界集落への支援活動に力を入れていたと聞きました。

障がいがある方もない方も、ともに地域の中で働き、暮らせる社会を目指して2011年に開始したのが、移動商店街「ぎょうれつ本舗」です。買い物に困難な山間部や過疎集落へ出向き、利用者さんがスタッフとなり、パンや焼き菓子、お惣菜などの食料品、日用品の販売を行いました。

—『福祉をたがやし、「おたがいさま」のつながりを育てる。』のメッセージに込めた思いを聞かせてください。

困ったときは“おたがいさま”。気軽にそう言える温かい心が人とのつながりを広げていくと思います。福祉制度の受け皿という役割だけではなく、虹の会という拠点をひらき、「地域の人と一緒に」活力ある地域を築ききっかけづくりをしていきたいです。

—田村理事長にとって福祉ってなんですか？

人によって幸せの形は違いますが、一人ひとりの命や権利が守られ、人や社会とのつながりの中で幸せに生きていける地域をつくっていくこと。それを特別なことだと思わず、ふだんの暮らしの中で自分事として考えたり、ちょっとやってみる、そんなことが広がれば福祉が身近になっていいなと思います。

理事長

田村きよ美

2023年に社会福祉法人虹の会の理事長に就任。高島市の好きな場所は、朽木小入谷地区の「おにゅう峠」。最近の趣味は、自宅の畑で育てた野菜で漬物を漬けること。



ぎょうれつ本舗は、その名の通り、移動販売車が行列をなして過疎集落を回る。買い物に困難な方への支援と障がいのある方が地域社会で働く先進的な取り組みとして話題に。



#### ロゴマークについて

虹の会のロゴは、「虹」があらわれるための、「雨粒」「太陽」「人」をモチーフに取り入れています。雨粒は困難や試練を、太陽は希望と光を、そして人は私たち一人ひとりの存在の尊さを表現しています。どのような困難も、ともに支え合うもの同士が、その先にある光を見つめることで乗り越えていけるものだと思います。